

（午後1時00分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、10番 坂口君。

〔10番（坂口親宏君）登壇〕

○10番（坂口親宏君）弥生、3月は別れの季節です。補欠選挙で議席をいただいてから、間もなく1年を迎えようとしております。この本会議場で、そして、委員会室で、皆さんと意見を交換してまいりました。こうやって壇上で見ますと、本当に多士済々、個性あふれる議員の皆さんと意見を交換できましたこと、私の五十数年間の人生の中でまさに珠玉の経験でございました。いろいろとご教示をいただきまして、本当にありがとうございました。ですが、この4月、この皆さんの中で違う道に進まれる方がいらっしゃると聞いております。また、新しい道に進まれましても、ふるさと橋本市の活性化のために、私のような経験の浅い議員にお知恵をお借りできればと思っております。

それでは、議長のお許しをいただいておりますので、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

議員として初めて一般質問に立った昨年の6月議会での質問の一つ、前畑秀子さんの生誕100年記念事業として、日本のオリンピック史上初の女性金メダリスト、前畑秀子さんの偉業をこの橋本市から再び全国に発信させるために、2020年東京オリンピックの年に、前畑秀子さんをNHK朝の連続テレビ小説、朝ドラのヒロインとして、前畑秀子物語として橋本市でロケを行い、制作・放送していただ

けないか、NHKに対して陳情してはどうかと、昨年6月議会で質問をさせていただきましたところ、平木市長からも大変前向きなご答弁をいただきました。あれから9カ月、進捗はどうなっているのかお尋ねいたします。

まず、一つ目。NHKに対してのこれまでの陳情やアプローチなんですが、どの程度行っているのか。また、NHKと接触しているのであれば、それに対して、NHKサイドの反応はどうであったのか、ご報告いただきたいと思います。

また、今後、朝ドラを誘致させる可能性をより高めるためには、これまでのNHKサイドの反応を鑑み、橋本市としてはどのような取り組みが必要と考えているのか、お尋ねいたします。

2項目め。既にプレスリリースされている内容で、新聞にも紹介されているんですが、今春に誘致に向けて実行委員会を立ち上げると発表しておりますけれども、その実行委員会は具体的にいつ、どのように組織していくのでしょうか。さらにその実行委員会の担当窓口はどの部署になるのか。また、実行委員会を中心に今後、どのような方法で誘致活動を行っていくことになるのでしょうか。全てが実行委員会が立ち上がったからというご答弁になるかもしれませんが、であれば、なおさら、その実行委員会は推進力を持つ、実効性のある組織にする必要があるかと思っておりますので、設立の方法やどのような委員会組織にするのか、さらに、今後のロケ誘致に向けてのタイムスケジュールなど、より詳しくご説明くださるようお願いいたします。

三つ目。今年のガンバレの日、8月11日に、

朝ドラ誘致活動と何か連動するイベントを本市として企画してはどうかという提案をさせていただきます。これは昨年の6月議会でも、幾つか具体的にイベントを提案させていただいたんですが、結局、ガンバレの日には何も企画されなかったことを振り返り、このガンバレの日には朝ドラ誘致活動を含めての本市におけるイベント企画について、どのようにお考えなのかお尋ねいたします。

壇上での私の質問は以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君の（仮称）前畑秀子物語、NHK朝ドラ誘致に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）まず、はじめに、（仮称）前畑秀子物語の朝ドラ誘致に向けての進捗状況と今後の誘致プランについてお答えします。

今年度、ベルリンオリンピックで日本女性初の金メダリストとなり、橋本市名誉市民でもある前畑秀子さんの生誕100年を記念して、各種事業を展開してまいりました。また、平成26年6月市議会定例会での10番議員のおただしから、NHK朝の連続テレビ、いわゆる朝ドラ誘致の機運が盛り上がったところです。その後の誘致活動の経過進捗について申し上げますと、昨年7月、前畑秀子さんのご長男である兵藤さん並びに出身校である椋山女学園を訪問し、朝ドラ誘致の承認と協力依頼を行うとともに、同月NHK東京制作局への訪問を皮切りに、大阪放送局制作部、本年1月には和歌山放送局にドラマ化の依頼を行ってきました。

また、誘致の準備会的なものとして、伊都振興局・橋本商工会議所・橋本市まちの歴史資料保存会及び市教育委員会が必要に応じて

集まり、話し合いを重ねているところでございます。

この間、11月12日には、平木市長自ら東京NHK本部に赴き、朝ドラ誘致の依頼を行い、その意気込みを伝えてきました。NHK担当者は朝の連続ドラマで、0.1秒を縮める練習とその努力を延々と描いていくのは難しく、スポーツ根性ものは一般的に連続ドラマに向いていないとのことですが、前畑さんにまつわるエピソードや、家族・友人・先生・ライバルなどのつながり、人間味あふれる情景などを織り込んでいけば可能性はないわけではないとの見解でした。

また、資料や本市職員が作成したプロモーションビデオ等も提供しましたが、NHK大阪放送局からは、関西・大阪でのエピソードや本人にまつわる資料要望の話があったため、それらの収集についても力を尽くしたいと考えています。

NHKサイドからは、全国各地の朝ドラ誘致の要望は多数挙がっているとのことでまだまだ前途は厳しいものがありますが、2020年には東京オリンピックも控えていることから、橋本市の活性化とガンバレのまち！橋本市を全国に広める千載一遇の大きなチャンスと捉え、誘致活動により一層努めていきます。

次に、ガンバレの日に行うイベントの企画についてですが、教育委員会としては必ずしも8月11日のガンバレの日の開催とはなりません。ガンバレの日にちなんだイベントとして、小・中学生を対象とした水泳大会も今後も引き続き支援し、前畑秀子さん、古川勝さんの偉業を子どもたちに伝えていきたいと考えます。

○議長（石橋英和君）企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）次に、前畑秀子物語のNHK朝ドラ誘致実行委員会についてお

答えします。

今年1月の定例記者会見の席上において、橋本市まちの歴史資料保存会主催の前畑秀子生誕100年記念事業に関連して、記者の方から実行委員会の立ち上げについてのご質問を受け、それに対し、市民主体の実行委員会を平成27年4月以降できるだけ早い時期に立ち上げ、市も全力で推進していきたいと答えていますが、実行委員会の組織や構成については、現在のところ、まだ決まっていません。

しかしながら、先月7日、また20日に実施された、前畑秀子生誕100年記念事業には、多くの市民、団体、研究者の方々が参加され、非常に高い関心を持たれていると実感いたしました。

このことから、できるだけ早い時期に実行委員会が組織できるよう積極的に働きかけと協力を行っていきたくと考えています。また、市として、前畑秀子さんの偉業を後世に伝えていくために、市の広報部門や職員が作成したプロモーションビデオなどを活用したPRを進めるとともに、教育現場での子どもたちへの伝承なども検討していきたくと考えています。

実行委員会の市の担当部署については、現在、前畑秀子生誕100年記念事業など、教育委員会が担当していますので、引き続き担当することになります。

今後の誘致活動については、実行委員会が事業計画を立て推進していくことになりますが、市としても実行委員会に対し全面的に協力し、実行委員会とともに活動を行っていきたくと思います。

また、市長は、以前からNHK放送局への陳情、先日の前畑秀子さんに関係する岐阜市、椋山女学園の訪問など、ドラマ誘致の積極的なアピールを行っています。機会があれば何度でも赴く決意をしていますので、ご理解の

ほどよろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君、再質問ありますか。

10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）大変前向きなご答弁、そして、いろいろとお手配をいただいているようでございますので、以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきますと申し上げたいところではございますけれども、まだ、時計の針を見ますと、あと48分少々もございますので、あまりにもということでございますので、一つ二つ、あるいは三つ四つと質問をさせていただこうかと思っております。

本当に6月議会で、朝ドラジャンボ宝くじ1枚買いませんかと申し上げましたところ、1枚お買い求めいただきまして、本当にありがとうございます。300円の宝くじでございますけれども、1等は大変高い確率でございます。非常にハードルが高い、朝ドラ誘致という目的に向かっては大変高い確率なんです。少なくとも末等300円以上、当てていきたくと思っています。

そのために、まず、いろいろ質問を申し上げたいと思うんですけれども、朝ドラの誘致という、単にロケを誘致するだけじゃないかという、そういうお声もあるんですけれども、市としてはこのNHKの朝ドラ、NHKの朝ドラと言いましたら、大河と並んで看板番組なんですけれども、この朝ドラを橋本市でやってみようという、その意義については、どのようにお考えなのか、まず、この質問からさせていただきたいと思うんですが、経済部はどのようにお考えなのでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）先日、私も議員とご一緒させていただいて、岐阜市と名古屋市のほうに前田さんの関係でお伺いさせていただきました。非常に、名古屋の椋山女学園の

ほうは積極的に対応していただきましたので、本市としても、非常に観光振興につながっていく大きなプロジェクトであるというふうに認識しております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございました。大変前向きなご答弁をいただきました。6月議会でも申し上げましたが、経済波及効果、一昨年の「あまちゃん」の経済効果は約33億円、観光客も2倍というふうなシンクタンクによる試算が出ておりますけれども、実は和歌山大学観光学部の大井達雄准教授がおもしろい論文を発表されていらっしゃるようです。タイトルは「連続テレビ小説『カーネーション』による経済効果の計測」という論文でございます。朝ドラによる経済効果の論文記述がされておりますので、あと45分ほどお時間ゆっくりとございますので、少しお時間を頂戴して読ませていただきます。

NHK朝の連続テレビ小説（朝ドラ）は、作品ごとにドラマの舞台が全国各地に設定され、舞台となった自治体では地域振興の期待に沸く傾向にある。例えば2007年下半期に放送された「ちりとてちん」では福井県小浜市が舞台となり、市の担当者がその集客能力の大きさについて実感する発言をしている。また2009年度の上半期の「つばさ」の舞台となった埼玉県川越市では、当時の市長がその経済効果として観光客が3割増加することを放送開始1年前に見積もっていた。朝日新聞、これは2008年6月17日の朝刊からの抜粋ということなんですけれども。

やはり、連続テレビ小説「カーネーション」をはじめ、やはり経済効果があると、学術経験者も、あるいはマスコミ等も認めている記述がされております。本市としても、やはり、経済効果は当然あるというふうに見積もって考えております。朝ドラジャンボ宝くじ1枚

をお買い求めいただきましたので、NHKの反応としまして、先ほど教育次長がお答えをいただきましたように、スポ根もの、スポーツ根性もの、スポ根、スーパーコンピュータと違いますよ、それはスパコンでしょう。スポ根、なかなか最近伝わらないんですよ、スポ根。スポーツ根性物語、1970年代にヒットしたんですけども、スポ根。NHKの朝ドラでは、なかなかこのスポ根は採用しないとおっしゃっているんですが、ですが、やはり、前畑秀子さんは1936年以降、戦争を経験されて苦勞をされていらっしゃるわけですから、人情もの、あるいは恋愛もの、人とのつながり、あるいは絆、そういったものをNHKサイドは何かないですかというようなお答えでございました。

この経済効果なんですけれども、再度、今の話を含めて、副市長はどのようにお考えになるのか、ちょっと改めてお話を聞いてから、次の質問をさせていただきたいと思うんですが。副市長、学術経験者もメディアもこのように伝えているんですが、本市としてやはり、本気で取り組んでいただけるのかどうかも含めて、ちょっとお考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（石橋英和君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）議員先ほどからご説明いただきましたように、効果というのはかなり本当にあるんだろうというふうに思います。私、あまり朝が、ちょうどテレビを見れる時間帯はもう出勤をしておりますので、残念ながら朝ドラというのはあまり見ていないんですけども、今、「マッサン」というのがもう最終局面になっているかと思うんですけども、この「マッサン」で、ウイスキーがものすごい売り上げが増えたということも新聞紙上に一応、載っておりますので、見ている視聴者の方の視聴率というのは、大河にしま

しても朝ドラにしましても大変高いというのは、そういうことだろうと思いますので、影響力というのはものすごい大きいかなというふうには思っております。

ただ、先ほどからも、初めの答弁でも申し上げましたように、これはNHKがやっていただいて初めてということでもありますので、どうやってそういう形に持っていけるのかというところが一番大事な点かと思っておりますけども、ドラマ化するにはそれなりのエピソードなりを積み重ねて、半年間という長い期間にわたって、毎日毎日見ていただけるような番組をつくらなければならないというのが最大の点かなというふうに思っておりますので、ここは何かいろんな資料を集めて、NHKのほうに引き続き、市長も先ほどからも答弁の中でも出ておりましたけど、積極的に陳情活動したいというふうにおっしゃっておりますので、そこは、できるだけそういうことをやって、最終的に、これは今、言うことではないんかもわかりませんが、だめだったとしても、橋本市民に対する前畑秀子さんの再認識という効果は非常にあるんじゃないかというふうに思っております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）副市長ありがとうございます。本当にいただきたいご答弁をいただきました。ありがとうございます。「マッサン」の話も出ましたので、舞台の一つとなった余市町の昨年度の観光客数でございますけれども、前年比3割増のおよそ111万3,500人、ニッカウイスキーの余市蒸留所、過去2番目に多い46万人が訪れたということでございますので、今、人気の「マッサン」もこのように経済効果が間違いなく出ているということで、ただ、最終的な判断はやはりNHKということで、下駄を預けているわけですがけれども。

でも、NHKはこう言っています。「ある日突然、前畑秀子さんをやりますと言い出すかもしれません」ということをおっしゃっています。それともう一つ、陳情回数を増やしても、あるいは、署名活動を何十万人持ってきて、それはあまり意味がないと。最終的にやはり、今、副市長もおっしゃったんですが、半年間、およそ150回のドラマを積み重ねることができかどうかということだと思んですが、NHKの朝ドラの制作費って、皆さんご存じでしょうか。NHKの朝ドラの制作費用というのは、およそ、だいたい、1話が900万円ぐらいです。15分番組をつくるのに、およそ900万円。150回のシリーズですから、およそ14億円のビッグプロジェクトなんです。

NHKとしましては、大プロジェクト、こけるわけにはいかないというふうにNHKのドラマ部長はおっしゃっています。ですから、陳情が何回あっても、「はい、簡単にやりませよ」ということはできないかと思うんですが、であれば、やはり、150回のドラマをつくることができるという裏づけが必要だと思います。

それにはやはり、実行委員会をきっちりと立ち上げてヒアリングをする。前畑秀子さんのエピソードを積み上げていく。まだ、90歳以上の方で前畑秀子さんと実際に会った、あるいは、前畑秀子さんに教えてもらったという高齢の方がいらっしゃいます。著書も残されている方も橋本市にはいらっしゃいます。そういう方のお話をきっちりとヒアリングしていく、調査をしていく、そのためには、実行委員会が絶対に必要です。

まだ未定というお話だったんですが、これは2020年の東京オリンピックの放送というよりも、2019年、今、東京と大阪、持ち回りで制作をしておりますから、西日本ということを考えれば、東京の制作という可能性は低いということを考えて、恐らく、BKNHK

大阪が制作される可能性が高いので、ひょっとすると2019年の10月スタートという判断をされる可能性もありますので、そうしますと、あと2年半から3年弱という期間しかありません。実行委員会、今、未定というお話でしたけれども、早々に立ち上げていただいて、今、申し上げたようなヒアリング調査をしていく、あるいは、資料を積み重ねていくことがどうしても必要になってくるんだろうというふうに思います。

まだ未定とおっしゃっていましたが、2月7日、木村香織先生がお越しいただきまして、教育文化会館、皆さんのご尽力で超満員になったと思うんですけれども、あれだけ前畑秀子さんにご関心がある市民の方がいらっしゃるわけですから、一般公募にすることも考えていただきたいと思います。いろいろな各種団体とのつながりもあろうかと思うんですけれども、このあたりは一般公募にさせていただけるのかどうかということも含めて、実行委員会の組織づくりについては、今、どのようなお考えなのか、今、教育委員会が部署とおっしゃっていただきましたので、教育長、お答えをいただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（小林俊治君）議員のおただしにお答えします。

できましたら、一般公募という形で民間の方々、市民の方々が中心になって盛り上げていただくのが一番ありがたい、そう思っています。ただ、やはり、企画立案の中には、市としても責任を持って対応していく必要がございますので、その部分については全力を上げて取り組んでいきたい、そう思っております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）教育長ありがとうございます。ぜひ、早々に実行委員会を立ち上

げて、先ほど申し上げましたように、2019年の10月スタートという可能性も含めて、いろいろとヒアリング調査、情報収集等、お願いしたいと思います。

それから、老婆心ながら、2月7日の木村香織先生の講演の様、あるいは、先日、岐阜、あるいは椋山女学園に連携の話を行ったと思うんですけれども、その内容等につきましては、NHKサイドに、橋本市としてはこのような活動をしていますというアプローチ、これも陳情活動であったりとか、あるいは、協力要請になるかと思うんですが、それはさせていただいているのかどうかという確認をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）お答えをさせていただきます。

まず、岐阜市に行かせていただいたのは、市の主催事業ということで取り組みをさせていただいて、岐阜市のほうから向こうのマスコミのほうの記事で掲載をしていただいたところでございます。

それから、講演会、椋山女学園への訪問ということになりますと、橋本市まちの歴史資料保存会が主催した事業でございます。ただし、橋本市も教育委員会も後援をさせていただいたというようなこともございますし、準備会的な組織で教育委員会も参加させていただいておるところも含めまして、NHKのほうには、今まだできておりませんが、早急に取りまとめを行って、報告をしていきたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございます。大変お手数ですけれども、やはり教育委員会が中心になって、こまめにNHKに橋本市としては本気で、朝ドラ誘致に向けて頑張

っているんだということを、ぜひお伝えする意味で、こまめに資料等をお送りいただけたらというふうに思います。

それと、ガンバレの日、先だって、先日、橋本市の職員の方とお話をしております、はたごんぼの日の話をしております、「8月の5日、はたごんぼの日ですね。ガンバレの日と近いですね」と、そんな話をしておりますが、「ガンバレの日って、いつでしたか」という答えが返ってきました。橋本市の職員の方でもガンバレの日がわからない方がいるんだと思ひまして、であれば、ガンバレの日には何かイベントをしていただきたいな、そんな思いで質問をさせていただいたんですけれども、昨年も質問をさせていただきまして、結局、ガンバレの日には何もなかったんですが、ほかの日にやるというのも、いろいろなご都合があつて、なかなか8月の11日、平日でできないということもあろうかと思うんですが、8月の11日にやるという意味については、どのようにお考えでしょうか。どなたかお答えいただければと思います。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）8月11日という日にイベントというのは、かなりインパクトの強いものになろうかと思ひます。ただ、水泳大会ですと、橋本市水泳協会の協力もいただかんなんというようなことで、今までは8月11日にできていなかったというのも一つ事実としてございます。今後の8月11日における取り組みでございませうけれども、誘致活動の一步につながっていくものと考えておりますので、今後、設立予定しておる誘致委員会の中でしっかりと議論をしていただく、していきたいなというふうに思っております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございます。ぜひ、実行委員会が立ち上がってからの

話ということになろうかと思ひますので、8月11日ガンバレの日、橋本市民の皆さんにも、市職員の方も含めて知っていただくためにも、何がしかのイベントをしていただけたら、それもまた、朝ドラ誘致に向けての活動になろうかというふうに思ひます。

それと、もう一つ提案をさせていただきます。先だって2月7日の木香織先生の講演のときに、日本水泳連盟から、鈴木大地会長からのメッセージが届きまして、日本水泳連盟としましても、この前畑秀子さんの物語を朝ドラとして取り上げていく、全面協力を惜しまないという内容だったと思うんですが、これは日本水泳連盟とパイプができたわけですから、橋本市の子どもたち、もちろん泳げない子どもたちは1人もいない、水泳の力を高めていく、水泳を通して教育をしていく、それもまた、朝ドラの誘致活動の一つだと思うんですけれども、水の事故が全くありません橋本市、子どもたちが元気に泳ぐ橋本市、そんなイメージをして今、お話を申し上げているんですが、あるいは泳力検定をするということも一つの手かというふうに思ひます。

あるいは、今年、国体がありますので、水泳競技というのは和歌山市で行われるんですが、ここで日本水泳連盟の幹部スタッフと連絡をとりながら、改めて協力を要請していくというようなことも含めて提案をさせていただいておりますけれども、このあたりは何か実現できそうなことはございませうでしょうか。どうでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（小林俊治君）ただ今、議員おっしゃられたとおり、2月7日、前畑秀子記念講演会のときに、日本水泳連盟の会長であります鈴木大地さんからメッセージをいただいております。そして、橋本市水泳協会の方々も熱心に水泳競技に取り組まれております。

また、橋本市は、今から振り返りますと50年前に、やそしま丸での水難事故があり、その以降、水泳ということに大変力を入れてきたまちでございます。そういう意味では、前畑、古川を生んだまちであり、そういう水難事故に遭ったまちでもありますので、議員おっしゃる部分で、検定その他、何かの取り組みを夏休み中にでも考えていきたいと思っております。そして、現場、小学校、中学校におきましては、特に小学校なんですけど、かなり最後まで泳げるような水泳指導というのを徹底しております。より一層徹底して、みんなが水泳上手になれるように、また指導していくように、お話もさせていただきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございます。本当にいただきたいご答弁をいただけて、これ以上、お話することもございません。

おしまいにつただけお願い事がございます。私、6月議会で、前畑秀子物語パイロット版を、制作費0万円で作りましたと申し上げましたところ、実現をさせていただきまして、大変すばらしいパイロット版、バージョン1.0ができ上がっております。もう皆さんもご覧いただいた方もいらっしゃると思うんですけども、本当に前畑秀子さんのこれまでの偉業、実績がわかるようなすばらしいビデオ、制作をいただきました。改めて、ここでお礼を申し上げます。本当に手間がかかったと思います。いろいろな資料を集めて、それを映像化する、あるいは、市長にもご出演をいただきまして、本当に市長からも熱いメッセージを頂戴した、そんなすばらしいビデオでございました。

ただ、これは理由がございまして、外部リリースができない、外部に向けて発信できな

いというものでございました。私はそれではあまりにももったいないと思いました。やはり今、メディア等にどんどん発信して、テレビ番組、バラエティー番組、ニュース番組等でも、橋本市は前畑秀子物語をつくっている、市職員がつくって、これだけのものをつくって、朝ドラ誘致に向けて頑張っているということを発信させるためには、著作権等もクリアしたもの、外部にリリースできるものが必要だと思うんですけども、ここはどのようにお尋ねしたら、非常に今、考えながらしゃべっているんですが、私は奥の手を考えています。著作権が全てクリアされている、そして、橋本市の熱い気持ちが入っている、そして、市長にも熱い気持ちが入っている。これは申し上げますと、去年の6月にも申し上げたんですが、市長に橋本市民プールのプールサイドにお座りをいただいて、模擬実況、架空実況をしていただくしかないと思います。申し上げますね、このように市長に実況していただいたら、NHKのベルリンオリンピックの実況放送を使わなくてもいいんじゃないかなと思っています。

NHKの河西三省アナウンサーは深夜0時を少し回った日本に向かってこう絶叫していました。「前畑リード、前畑リード、前畑頑張れ、前畑リード、頑張れ、頑張れ、前畑リード、頑張れ、頑張れ」「あと5メートル、あと5メートル、前畑勝った、勝った、勝った、前畑勝った」。河西アナウンサーは「頑張れ」を24回、「勝った」を14回連呼したと言われております。これを、平木市長がプールサイドにお座りをいただいて、そして、当然、映像は当時をしのいでモノクロにします。そして、画像はやはり、前畑秀子さんの当時の水泳のスチル写真を使わせていただいて、あるいは、ズームしたり引いたりとか、今、そういった加工ができますから、そういったものをつく



れば、市長が河西三省になりきり、河西三省アナウンサーということであれば、市長にもご出演をさせていただいて、著作権完全フリー、著作権完全に橋本市ということで、歓声の前畑秀子物語のベルリンオリンピックの実況放送ができるんじゃないかと思うんですけども、市長、ここは一肌脱いでいただいて、アナウンス指導は私が懇切丁寧にさせていただきますので、ここはマイクの前に、ヘッドセット実況席の放送と、マイクを握っていただいて、やっていただければ、外部にリリースできる、マスコミにも取り上げられる、そして、市長の熱い気持ちが入った前畑秀子さんの実況放送が、外部に向けてリリースできる。そんなものが、そういったバージョン2.0ができて上がると思うんですが、その意気込みと、最後に、この朝ドラ誘致に向けての市長の気持ちをお聞かせをいただいて、私のそろそろ25分を切っておりますので、20分少々で質問を終わろうかと思っていたんですが、少々時間がオーバーしてしまいました。このあたり、市長の意気込みを、十分な意気込みを聞かせていただければ、再質問はこれ以上しなくて済むんじゃないかと思えますけれども、市長、そのあたりはいかがでございますでしょうか。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

朝ドラ誘致に関しましては、引き続き努力を続けてまいりたいと思いますし、私と坂口議員とちょっと違うのは、私は市民の皆さん中心にこの運動を進めていきたいというふうに思っています、あまり教育委員会が、資料の収集とかそういう面ではやっていったらええと思うんですけど、ある意味、実行委員会のほうで立ち上げていただくとということが大切なというふうに思っています。

これは、橋本市の偉人に通じて言えることなんですけども、市民の人がどれほど前畑秀子先生や岡潔先生、古川勝先生、小島一枝先生が本当に偉大な方やったかという、そういう情報発信をしていく意味でも、私はここに、これを市民を中心とした活動としてやっていきたいなというふうに思っています。

確かに、ちょっと実行委員会の体制づくりが遅れています。ちょっと事務局の問題もありまして、当初お願いしようとしていたところからあまりいい返事がもらえなかったもので、新たな事務局をお願いする方向で今、検討をしています。どことは言いませんが、ちょっとなかなか現状では難しいので、新たな、まず、事務局をつくらないと、これからどうやって進めていくのかというのは非常に難しい問題ではないかと思っています。

朝ドラのアナウンスの件につきましては、私、そんなに口がべらべら回るほうではありませんし、これは、逆に、実行委員会のほうで、ビデオの中身等も検証をさせていただいて、市民の方が決めていただくというのが一番いいのかなと。まず、確かに、坂口議員の提案も一つの手段としては考えられますけども、逆に、行政や議員が表へ立ってやってしまうと、固定化してしまうのかなというふうに思いますので、できるだけ実行委員会の中で、新しいビデオをつくる際には、どういう中身がいいのかということを検討していただければいいのかなというふうに思っています。

ただ、一つ言えることは、私もNHKへ行ってきましたけども、前畑秀子さんに関するエピソードとか、そういう実話をどうやって集めていくかということのほうは現在は今、大事であって、そういうビデオづくりであるとか、組織はどうなってるのというよりも、今、いかにしてそういう情報を収集してくる、今、情報を収集することのほうは恐ら

く大事でありますし、脚本をつくるにしても、誰に頼むのかとかというのも非常に大切なことであると思います。だから、そういうエピソードを持って、NHKへ先に行くほうがいいのか、いろんな問題があると思うんですけども、できるだけこれは必ず誘致できるとは、なかなか難しい問題もありますので思っています。ただ、市民の人たちと一緒に、市民協働として、これを取り組んでいくということで進めてまいりたいと思いますし、なかなか厳しい側面もありますので、努力は続けてまいりたいと思いますので、議員の皆さんのご協力もお願い申し上げます。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）市長、ありがとうございます。本当にそのとおりです。市民の皆さんの盛り上がりがあってこそ、前畑秀子物語が成功しようというものだと思います。ですが、やはり、実行委員会、事務局というお話もされましたが、事務的な手続き、あるいは、やはりコアになるもの、組織が必要だと思いますので、実行委員会の設立が遅れているのであれば、なおさら、事務局というものをやはりしっかりとまず、立ち上げていただいて、そういった業務ができるような、これは専門部署でないといけないと思います。今、いろいろと申し上げましたけれども、片手間

のできるような仕事ではないと思っています。前畑秀子物語朝ドラ誘致事務局みたいな、そんなものをつくっていただければ、そこにいろんなものが集約できるような仕組みをしていただければというふうに思います。

私の質問は以上でございますけれども、朝ドラジャンボ宝くじ、お買い求めいただきまして本当にありがとうございました。1等は大変高い確率ですけれども、3等以上くらいは当てたいなというふうに思います。その3等以上というのは、この朝ドラ誘致に向けて、1等は当たらなくても、それに向けて、橋本市の市民の皆さんが、前畑秀子という名誉市民がいらっしゃった、過去に日本に誇れるような橋本市の名誉市民がいらっしゃったということが、子どもたちにも伝わる、そして、元気を分けて、元気を持ってもらえる、そして、一緒に過ごしたお年寄りたちも、前畑秀子と青春時代を過ごしたお年寄りにも元気になってもらう。そんな橋本市の皆さんに夢を与えてくれるようなジャンボ宝くじであってほしいと思います。

私の質問は以上でございます。ありがとうございました。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君の一般質問は終わりました。